

Instagramの利用と承認欲求の関係について

天野由梨(22011008ya@tama.ac.jp)

研究の背景と目的

研究の背景

現代の若者は、SNS利用時間が非常に多い。2017年、SNSに上げるために写真だけ撮られゴミ箱に捨てられたとする大量のアイスクリームが見つかった。更に2022年、ユニバーサルスタジオジャパンのパーク内で露出の激しい服装で撮影をしてInstagramに写真をアップした女性たちがネットで炎上騒動を巻き起こした。投稿後に多くの人から「いいね」を貰う目的で現実とはかけ離れた投稿をしたり過度な行動に出たりなど、様々な問題を抱えるようになった。そこで本研究では、Instagramの利用と承認欲求の関係を明らかにする。

2. 先行研究

菅原は賞賛されたい欲求の強い者は積極的に行動し他者の注目を集めることによって、集団の中に自分の居場所や役割を確保しようとすることで明らかにしている。

加納は承認欲求の高低とソーシャルメディアの利用頻度において、承認欲求が高い者はTwitterとInstagramおよびネット検索をよく利用しているということを明らかにした。

桑原・藤岡は、未就学児を子育て中の母親は承認欲求の高低により、自己情報の公開内容が異なることを明らかにした。

3. 研究方法

Googleフォームを用いてアンケート調査を行った。10代～20代の男女を対象にアンケート調査を行った。また、調査対象は10代から20代の男女に、クラウドワークスと自身のSNSで実施した。

調査内容については、Instagramの利用有無、利用者のみへの質問6つ、利用者、非利用者へ承認欲求尺度を用いた質問5つである。

4. 結果と分析

アンケート調査を行った結果、198名からアンケートを得ることができた。Instagramを利用している人は88.9%、写真・動画機能を利用したことがある人は82.6%、ストーリー投稿機能を利用したことがある人は、79.8%である。

今回の調査対象が対集団であるとき、問9から問13の中でどの項目を最も軸として意

識、行動しているか主成分分析し、問10のグループの予定と自分の予定が合わなかったときが第1主成分、問9のグループが盛り上がったときが第2主成分であることが分かった。次に、写真・動画・ストーリー投稿の頻度、公開内容と問9、問10をそれぞれクロス集計し、分析した結果、Instagramの写真・動画、ストーリーの投稿頻度、公開内容と承認欲求の高低に関係は見られないことが分かった。

5. 結論

承認欲求の高低により、Instagramの写真・動画、ストーリー投稿機能において、投稿頻度に影響はなく関係性がない。

承認欲求の高低により、Instagramの写真・動画、ストーリー投稿機能において、公開する投稿内容に影響はなく関係性がない。

参考文献

- ・総務省(2022)「令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」
- ・grape『「許せない」、SNSにアップするためだけに関わられた。アイスの末路に怒り』公開2017年6月7日 更新2018年5月31日 grape編集部
- ・女性自身『「去年よりは全然健全」下着ユニバで炎上したインスタグラマーが見せたコスプレの変化』公開2023年10月30日 女性自身編集部
- ・菅原健介(1986)「賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求」
- ・加納寛子(2019)「承認欲求とソーシャルメディア使用傾向の関連性」
- ・桑原千明・藤岡愛美(2020)「母親のSNS利用実態とその関連要因の検討」

